

## 「今後の県立高校に関する地域検討会議（第4回）」記録要旨【宮古ブロック】

平成28年1月27日（水）

宮古市市民文化会館 1階 展示場

### 【山本 宮古市長】

- ・再編計画では、今までの検討会議の内容を宮古地区について十分にまとめていただいたと評価したい。
- ・定時制の校舎の問題や特別支援学校を含めた教育をこれからどのようにするのか、これから具体的話に進んでいくと思う。大方のところを酌み取って案を作っていたいただいたと思っている。

### 【花坂 山田町 総務課長】

- ・少子化に伴う長期的な児童生徒数の減少が止まらない以上、今回の再編計画に関しては受け入れざるを得ないという認識である。
- ・現在、まち・ひと・しごと総合戦略の作成に向け取り組んでいるが、今後の街づくりにおいて若い力の地元定着が一番大事であると考えている。
- ・町の努力は当然であるが、県でも地域の特色を生かした学習、地元定着を図る教育の指導に尚一層御尽力いただきたい。
- ・沿岸には沿岸の特色、様々な地域活性化の戦略等、沿岸全体に関わる問題があるので、第一次産業の担い手となれるような生徒の教育にも視点を向けてほしい。

### 【中居 岩泉町 副町長】

- ・少子化が急激に進んでくるという中で苦勞して策定した再編計画だったのではないかと思います、敬意と感謝を申し上げたい。
- ・出前説明会を開催していただき、地域の皆さんの理解も深まったと思う。
- ・宮古ブロックについては、このような状況があるのは重く受け止めながら、この現状がこのまま推移しては困るので、是非、それぞれの市町村の中で児童生徒が増加し、宮古ブロックで高校教育ができるような環境づくりに取り組んでいきたい。

### 【石原 田野畑村長】

- ・通学対策について、統合をした学校についてはバスの運行の補助等というよりも、岩手県は通学対策がしっかりしているから岩手県内の市町村を選ぶということになるように、県教委としてアクセス権を大事にした高校再編の視点をしっかり持つべきであると考えている。
- ・移住者からは医療と教育を求められる。人口減だから高校の再編をしなければならないというマイナス志向では駄目だと思う。現状に対するマイナス対策も大事であるが、ここに来ていただくプラス要因は何なのかという視点も捨てないでほしい。
- ・再編をした場合、高校生のスポーツに対する機会が失われる懸念をどのように払拭するのかということを考えてほしい。単なる数あわせの高校再編ではなく、通学する全県下の生徒がスポーツの機会を失わず高校生活を送れるように、スポーツクラブ的なものでの補完も含めて再編の中で検討してほしい。

### 【小林 田老町漁業協同組合 代表理事組合長】

- ・今回の再編計画では地域特性を勘案し小規模校等への配慮をいただいた。震災から人口が減少し、  
(次頁に続く)

さらに少子化で生徒が少なくなる状況の中で、現在の1学級校の宮古北高校があるが、地域にとって大事な宝であると思っている。2年連続で20人以下では統合となっているが、学校、地域で魅力ある学校づくりを進め、特色ある学校として存続してほしい。

- ・ 震災からの復旧が十分でないこともあり、地域の通学環境がとても悪い。バス停には屋根が無い、待合室も無い、三陸鉄道の駅舎も無い等、子ども達が可哀想だと思っている。地域にとっても教育環境を高めてもらう取り組みをお願いしたい。
- ・ 再編計画については、学校、地域がこれからの努力というところがあると思うので、その地域で頑張っていかなければいけないと感じた。

**【吉水 宮古商工会議所 専務理事】**

- ・ 再編計画の趣旨も分かるし、少子化が進むことも分かる。しかし、被災地については復興状況を見ながら対応をしてほしいと再三、お願いをしてきた。被災した沿岸地域については今回のような具体的な校名は出ないものだと、特例が出るのではないのかと期待していたところ。残念ながら沿岸地区においても高校名が具体的に出てきたので、この案について良いとか悪いとか言う立場では無いので、後は地域の声をしっかり聞いて対応していただきたい。

**【山崎 山田町商工会 専務理事】**

- ・ 生徒数が減少する中で、高校再編計画は受け入れざるを得ないと思っている。
- ・ 震災から5年が経過しようとしているが、街の復興が思うように進んでいない状況と今までの地域の取り組みはどの程度考慮されていくのか不安である。

**【中村 田野畑村水産業関係者代表】**

- ・ 児童、生徒数の減少に伴う高校再編はやむを得ないと思うが、この再編計画を見ると県北沿岸部が多いように思われる。県北沿岸は通学の便が悪い地域なので、再編で教育の機会が失われると、どうせ通わせるのであれば盛岡の方に下宿生活、寮生活で高校に入学させる等となり、地域の過疎化に拍車がかかる。県北沿岸の地元に通わせたいというニーズに応えられるような、通学支援策を継続協議していただきたい。

**【熊谷 田野畑村農林業関係者代表】**

- ・ 少子化が進む中で再編は避けては通れないところであるが、宮古地域からは内陸に出て行く生徒がいる。逆に他の地域からどのようにしたら宮古地域に生徒を呼ぶことができるか。町おこしにもつながると思うが、そのようなプラス思考のことも考えていかなければ、再編が益々進み、少子化、過疎化が進むことになる。そのようなことをこれから皆さんと考えながら、また、生徒のアイデアも取り入れながら特色ある高校になってほしい。

**【佐々木 岩泉町PTA連合会 会長】**

- ・ 岩泉高校に関しては、引き続きということで、これから高校入学を控えている保護者はホッとしましたと話している。今回の計画に関しては評価をしたい。
- ・ 専門学科について、今後も人口減少が続いていくが、産業人口が減少する中で、専門性が高い学科については、岩手県にとって重要な人材育成の場になるだろうと思う。普通科も含め配置については配慮をお願いしたい。

**【戸田 宮古市PTA連合会 母親委員】**

- ・ 全体として学級減での対応であり、現在の普通科、専門学科のそれぞれの学科の維持ができています点では良いと思う。
- ・ 校舎制の具体案が出ているが、少し不安がある。統合形態については検討委員会を持って具体的な  
(次頁に続く)

に論議しますとなっている。前期の予定で宮古工業高校と宮古商業高校を校舎制にするとのことであるが、将来的に見ると専門教科を学ぶ学校は新設校で1校の方が良いと思う。校舎制を導入しても、将来的にさらに別の高校も統合し校舎制とするのであれば、今から普通科1校、専門高校は新設校1校の方が良いと思う。

**【小林 山田町立山田中学校PTA 会長】**

- ・ 再編は少子化に伴い仕方が無いことだと思っている。再編計画は妥当な線なのかと受け入れざるを得ないと考えている。
- ・ 山田高校の1学級減について、山田高校は2学級であるから進学コース、就職コースとしての対応が今までであった。1学級になるとそのようなコース制ができなくなるのではないかと考えている。1学級校では進学に対する補習授業等が少なくなったり、就職に向けての教員の対応がどのようになるのか不安である。1学級校に変更になった際には、教員の配置について考えていただきたい。

**【佐藤 田野畑村立田野畑中学校PTA 会長】**

- ・ 岩泉高校田野畑校が無くなって以来、田野畑村の中学生は卒業すると村外に出て行ってしまっている。再編が進むと宮古市中心部から離れたところにある宮古北高校や岩泉高校は、生徒数の減少とともに無くされていく方向にあるような気もする。例えば岩泉高校は、今後の存続に努力しているが、そのことも県に考えていただき、地域に必要なであるという認識をこれからも持って周辺の高校も存続する方向で再編をお願いしたい。

**【伊藤 宮古市教育委員会 教育長】**

- ・ 再編の方向として、全日制だけではなく、定時制の方向性が示された。特別支援に関わる児童生徒は増えている状況にあり、それもトータルで考える必要があるので再編の方向については感謝申し上げる。
- ・ 小学校5年生の児童が平成32年度の受検の対象になる。概要版と同じようにダイジェスト版的なリーフレット含めて、子ども達向け、保護者向けの資料が出ると思うが、早めに情報提供いただきたい。
- ・ 平成32年度までのスケジュールを出していただきたい。どのような運用が良いのか、校舎制の話もあったが、今後5年で様々なアクセスが変わってくる。さらに次の5年後までには大きく街並みも変わって行くと思う。それも加味し、より具体性のある内容を地域の方と協議し、差しあたって5年後までのスケジュールについて行程表を示し、具体化をするための資料をお願いしたい。

**【佐々木 山田町教育委員会 教育長】**

- ・ 高校教育の在り方と現状を見つめながら地域の特性、地域に寄り添った形に上手くまとめ、提案していただいたと思っている。根拠となる資料を毎回提示していただきながら、今日の提案があり、ありがたいと思う。
- ・ 震災前の山田町の生徒の進路は、3分の2が宮古市にある県立高校に通っていた。宮古市内の高校の方向性が早く示されればと個人的に思っていたが、宮古市の努力もあり、山田町の生徒が通うところもまとめていただき、具体的な数が示された。今後、鉄道の復旧、復興道路でアクセスが良くなるので、そのようなところも見ながら生徒の進路の保証のところが今後益々大事になると思う。
- ・ 案を示されても、町では高校があるのが当然だと、存続という言葉は使わずに行こうと話をしている。1学級となる平成31年度以降はより具体的なものが検討されると思う。小粒でも光るという魅力づくりに向け、町と高校が協力しながら高校の在り方、多様性、質の保証を考えていかなければならない。

(次頁に続く)

- ・ 個人的な見解であるが、宮古高校を1学級減にしてから山田高校1学級減の方が個人的にはありがたい。しかし、総論として考えるとそれぞれの高校の役割から、今回の方が妥当なのだろうなど思っている。

#### 【三上 岩泉町教育委員会 教育長】

- ・ 通学体制の確保について、義務教育ではないが、自宅から通学できる体制の確保が行政の役割でもあると思う。保護者の経済的な負担のこともある。高校存続のために、進学に向けてはそれぞれ各市町村が手立てをしているが、そのようなところは県も一緒になり、できることであれば財政措置も視野に入れていただければありがたいし、検討をお願いしたい。
- ・ 教職員の体制について、小規模校になって一番大変になるのは学校現場ではないかと思う。それぞれの教科の指導体制が取れないとなると、ある程度の規模の学校へ行かなければ大学進学が難しくなってくる。そのような別の課題が出てくると思うので、合わせて県教委としても小規模校対策について検討してほしい。

#### 【巖岩 田野畑村教育委員会 教育長】

- ・ 再編計画は概ね評価したいと思う。特に、山間地域にある岩泉高校は特例校として示されている。現在2学級校であるが、さらに特色ある学校、地域の学校として2学級は維持できるような形にできれば良いと思っている。
- ・ 宮古工業高校と宮古商業高校が統合ということで、現在の5、6年生が入試の対象になる。中学生アンケートがあったが、今の小学生のアンケートも再度実施し、地域産業の方との意見交換も含めて学科改編がスムーズに進めば良いと思う。

#### 【佐々木 宮古市立第一中学校長】

- ・ 丁寧に状況を踏まえ、現実的な案が示されたと思っている。
- ・ 中学校では3学期が始まり、3年生は入試の準備をしているが、小学校を卒業し、今度中学校に入学する子ども達の保護者への説明や6年生の子ども達への中学校生活の説明が間もなくスタートする。その中で、例えば平成31年度、32年度の前期計画の後半部分については今の小学校高学年が該当するので、保護者に理解してもらうためにもこのような方向性になりそうだと話ができることは非常に価値が高いと思っている。
- ・ 将来の高等学校の学校運営の円滑な実施について、高校生活の大きな要素である運動部の活動、文化的な活動、生徒会活動を是非、将来も活発に取り組んでほしいと思っている。将来、校舎制による移動、通学等、保護者負担も少し軽減する工夫をしてほしい。円滑に移行するために、在学中に教育環境が変わっていく生徒が出てくるので、そのような生徒への配慮もお願いしたい。

#### 【県教委】

- ・ 現在、再編統合に伴って通学が困難になる場合に、市町村や保護者団体がバスを運行している場合についての支援をしている。再編計画により、県立高校を統合する際に、公共交通機関による統合先の高校等への通学費用が大幅に増加する場合、又は、公共交通機関での通学が困難になる場合には、再編計画を策定後、平成28年度中に各地域での状況も踏まえ、具体の支援策を決定したいと考えている。統合を伴わない通学支援については、義務教育ではないので導入することは難しいと考えている。どのような対応が良いか、市町村と連携、協力しながら対応していかなければならないと考えている。
- ・ 部活動においては地域でのスポーツ対策も必要ではないかと御提言をいただいた。これまで学

(次頁に続く)

校単位で行われている運動部では、近隣の高校間での協力や様々な形を今後も検討していかなければならないと考えている。

- ・ 校舎制の具体化については、計画策定後に関係学校長、PTA会長、同窓会長等の検討委員会を立ち上げ、校務運営等について十分な時間を掛けて検討をしていきたい。これまで統合等の検討を行う委員会では、少なくとも2年程度の時間を掛けているので、校舎制の導入に対する不安を解消できるように、そして生徒の学ぶ選択肢、進路の選択肢が広がっていくような対応を考えて参りたい。
- ・ 2学級校では進学、就職というクラスでの対応になっているが、現状の1学級校でも英数国等での習熟度別での指導や進路希望による指導の対応を行っている。配置する教員の制約の部分には課題になるので、教員の相互派遣やICTによる遠隔授業等の研究を今後県教委として進めていきたいと考えている。地域の皆さんと十分連携し、学校現場だけではなくキャリア教育や部活動における連携を含めて、対応を考えていかなければならないと考えている。
- ・ 岩泉高校は通学が非常に困難な地域にあり、学ぶ機会の保障をしなければならない学校として、特例校としている。前期計画のみならず後期計画でも同じ取り扱いとして、1学級になった場合の入学者が2年連続20人というのは適用されるが、地理的条件、教育の機会の保障を考えて可能な限り維持していかなければならない学校と考えている。
- ・ 再編計画が成案化された後、子ども達、保護者への周知や5年後に向けた工程表については、分かりやすい形で示す必要があると考えている。
- ・ 今回、再編計画に向けて中学生アンケートを実施したが、後期計画に向けてもアンケートを実施して行かなければならないと思う。その際には市町村にも御協力をお願いすることになるが、様々な資料を考慮しながら学科改編を進めていきたい。
- ・ 定時制については今後具体化していきたいと考えており、その場合には皆さんから意見を伺った上で対応を考えていきたい。

#### 【石原 田野畑村長】

- ・ 企業は宮城県を投資対象とし、岩手県は対象にしがたいという状況が深刻化すると考えられる。岩手県でも企業を支える人材育成をアピールしていかなければならない。単なる生徒減少からの高校再編だけを考えていくと、衰退する一方である。もっとお互いに危機管理を意識していく必要がある。産業界と意見交換し、人材の育成やどのようにしたら住んでいただけるかといったことについて、宮古市長を中心にしてさらなる挑戦をしていくという県としてのアピールをしていただきたい。
- ・ 皆さんの話を聞いていると、各学校で専門の先生に学べる機会について危惧していることが聞き取れる。学校が再編されたから教員を少なくするのではなく、ブロック毎に補完しうる教員の配備をしっかりと考えていると宣言したり、補完的な教員配置計画をしっかりと示してほしい。

#### 【県教委】

- ・ 地域を担う人材育成については、普通科、専門学科でそれぞれ考えつつ、中学生アンケートから県全体の傾向として普通科志向が見られることも踏まえ、高校入学段階で専門学科の魅力や職業の重要性をアピールするだけでなく、小中の段階からそれらに触れる機会を作っていくことも大事であると考えている。保護者に対しても、地域にどのような仕事がありどのように貢献できるか、ということに理解が得られるような地域ぐるみの活動も、地域における人材育成のカギになってくると思うので、連携して取り組んでいかなければならないと考えている。
- ・ 学科として選択肢を確保する形で、生徒が少なくなる中でも学べるように苦心しながら計画策定をしている。再編をしたことによって教員の数が減る形ではなく、こういった形で地域に必要な学び  
(次頁に続く)

を確保できるのかを十分考えながら対応していきたい。

**【中居 岩泉町 副町長】**

- ・ 前期、後期含めて現状維持の考え方を踏襲すると理解して良いのか。
- ・ 学校の最低規模について、「2年連続して20人以下となった場合には、翌年度から原則として募集停止とし、統合します」とあるが、「募集停止や統合について検討していく」という文言に修正はできないか。

**【県教委】**

- ・ 特例として扱う学校については、後期についても適用するという考え方であり、アクセスが良くなる等の特別な事情等がない限りは、特例として後期まで同じ扱いをする意味での記載である。
- ・ 集団による社会性等を考えると、1学年2学級以上が必要であるが、生徒の学ぶ環境、通学に関わる環境等地理的条件を考えると、本県においては特例として1学級も維持しなければならないと考えている。現状の1学級校も入っているの、分かりにくい部分もあるが、学校教育を行う場合にはあまりにも生徒が少なくなると、部活動や授業において生徒がグループ討論をしながら意見交換する活動や、進学、就職等グループに分かれた学習が難しくなる。グループが10人以下になると集団による学びが難しいということで、統合の基準を2年連続して20人以下と記載している。
- ・ 入学者が少なくなることが予想される段階から、地域の皆さんと意見交換や学ぶ環境について意見交換しながら、2年連続して20人以下の適用について、十分説明した上で考えていくことになる。

**【石原 田野畑村長】**

- ・ 理念として広大な県土を有するというので、今までの条件では無い地理的条件で教育の機会を確保するというのであれば、なぜ、特例という言葉を使うのか。「ただし」で良いのではないのか。岩泉、葛巻、西和賀が特例となれば、あれは特例でした、次はありませんという論理になる。特例という言葉を外していただきたい。
- ・ 理念優先であれば、このような2年連続という事務的な基準をなぜ構想の中に入れるのか。このような事務的基準は外していただきたい。

**【県教委】**

- ・ 特例について、今回の再編計画案の策定については、教育の質の確保と教育の機会の保障についてどのようにバランスを取っていくのかという中で考えたもの。本当であれば2学級以上はほしいところであるが、このように機会の保障を確保する必要があるということでこの言葉を使わせていただいている。御意見について、どのような形で表現するのが一番良いかについては検討したいが、県教委としては地域の高校を存続してほしいという意見を十分踏まえ、このような形で記載をしている。
- ・ 統合の基準について2年連続という部分は無い方が良いのではないかと意見をいただいたが、各地域での意見交換では、統合の基準的なところは明らかな形で示してほしいという意見もあったところ。前計画の基準では地元からの入学者が2分の1を下回る状況と入学者が20人以下という2条件があったが、今回は20人以下だけとしている。基準について明確に示してほしいという意見があったのでこのような形で示している。

**【山本 宮古市長】**

- ・ ある程度の基準を持って進めていかなければならないと思う。ただし、基準だけを持って高校の再編をしていくのは無理があると思うので、様々な事情をその中に組み込みながら、それを理解していただきながら、我々は子ども達の教育をどのようにしていくかということをお大前提に考えてい

(次頁に続く)

くべきだと思うので、文言の整理に関してはあまりこだわりたくないと思っている。

**【熊谷 田野畑村農林業関係者代表】**

- ・ 県内9ブロックで検討が行われているが、今後もブロック単位で再編を考えていくのか、ブロックを跨いで考えていくのか。田野畑村では宮古地域に通う生徒もいるが、久慈地域や盛岡地域に通う生徒もいるので、その辺も踏まえて説明をお願いしたい。

**【県教委】**

- ・ 学区としては現在8学区あり、広域生活圏として9ブロックで検討を進めている。学区では普通科において他学区への入学が1割を超えないという制限がある。学区を県内1学区にしてほしいという意見や、学区外に進む生徒への制限を強くした方が良いという意見の両論がある。学区については意見が分かれている問題でもあるので、今回は再編計画の検討とは切り離して考えている。平成28年度から推薦入試制度の変更があったことから、入試状況を見ながら学区、ブロックについては別に検討委員会を立ち上げる形を考えている。実際に学区を変更することになった場合には、生徒、保護者に重大な影響があるため、十分な周知期間が必要と考えており、今回の再編計画については盛り込めていないが、今後検討していきたい。

**【石原 田野畑村長】**

- ・ 各ブロックでの意見の概要を教えてください。

**【県教委】**

- ・ 宮古ブロックは6ブロック目であるが、今回の再編計画は学級減を中心としたものであること、専門学科の機能を充実させるための校舎制の案を示していること等があるので、全般的には再編計画の考え方に理解をいただいている。小規模な学校において、学級減になることについてもう少し延ばしてほしいという意見、地域の産業を担う人材を考える中で学科の改編がどのようになるのか等の意見が多くなっている。統合による校舎制を導入する地区の検討は、今回の宮古ブロックが最初であるので、これに関する意見については今後の検討会議で出てくると思っている。

**【県教委】**

- ・ 1学級校の在り方について御意見をいただいているが、1学級校を存続させることについては県教委としても勇気と覚悟がいることと思っている。一方では、再編計画自体が高校教育の質の在り方からスタートしている。1学級校では2, 3学級校と同じだけの教員数を確保することは難しいと思っているが、その中で県教委として努力すべきこと、支援すべきことは何かということを考えつつ、地域、学校、保護者、生徒にもともに歩んでいただかなければならない。生徒数が減っている中で部活動、文化、学校行事等を行う上でも少ない中で充実させるためには、教員の数だけの問題ではなく、皆さんの支援が必要になると考えている。
- ・ 地域の人材を守るという点では、高校の選択については子ども達、保護者の考え方も反映し、地元を一時的に離れる生徒もあるかもしれないが、地域の人材を守り育てるという観点については、義務教育を含め一連のものにしていかなければならないと思っている。仮に外に出た者も地元に戻って働こうとする意欲、職場があることも大事であり、専門高校では実際に技術を教えることもある。大学で学んでくるものもあると思うが、そのようなものを支援したり、雇用していただいたり様々な場面があると思うので、この点についても地域の支援が必要であるので、今後の御理解、御支援いただきたい。